

公共事業の効果等について

【事業名、地区名、事業概要】

事業名： 県営かんがい排水事業

路線名又は箇所名： 佐賀東部地区

事業の概要

工 期： 昭和52年度～平成24年度

事業費： 14,378,162千円

事業内容： 用水路工 L = 20,727m、用排水路工 L = 23,815m
揚水機場 N = 1箇所、排水樋門 N = 5箇所、水管理施設 一式

【公共事業の効果等】

農業用水の安定供給による農業生産性の向上。

農地の排水条件の改善による多様な作物の導入や収量の増加。

水路(クリーク)の管理水位を低下させることで、豪雨時の湛水被害を軽減(一時貯留機能の向上)。

担い手農家への農地集積を促進。

水路網と併せて道路網についても、関連事業(国営事業や圃場整備事業)と一体的に整備されたことにより、日常生活における交通面での利便性が向上。

【事業実施前の状況等】

平野部は、有明海の干満差を利用した淡水(アオ)取水により農業用水を確保していたため、用水量は不安定で水管理には多くの労力と技術が必要であった。

中山間部は、地区内の小河川等の限られた水源に頼っており、渇水時には農業用水不足が生じていた。

クリークが縦横無尽に張り巡っており、農地も不規則な状態で散在しているため、大型機械の導入が困難であるなど、農作業の効率が悪く営農に支障をきたしていた。

農業用水を確保するため、かんがい期にはクリークを満水にしており、農地の排水条件が悪いことから、畑作物の導入などが困難であった。

【事業実施後の状況や県民の声など】

淡水(アオ)取水を筑後大堰地点からの取水に変更(合口)し、農業用水の安定確保が可能となった。(関連事業：国営筑後川下流土地改良事業など)

ほ場整備事業等との一体的な整備による農地の区画整理やクリークの整理統合により、大型機械の導入などが可能となり、また、農地の排水条件が改善された。

上記の営農条件が改善されたことにより、担い手への農地集積や多様な作物の導入が進んだ。
(県民の声)

田植え時期に雨が降らなければ、田植えが10日間程度遅れていたが、事業実施後は代掻き、田植えが遅れるということはなくなった。

- 事業前は大雨が降ると数日間程度は湛水していたが、水路の整備により貯留機能や排水機能がアップし、近年では湛水被害も非常に少なくなった。

安定的に用水が確保できるため、かんがい期でもクリークの水位を下げる事が可能となり、水田の乾田化(汎用化)が図られ、多様な作物の作付けが可能となった。

営農時間の節減により、女性が参入しやすくなり、また6次産業化の取組も行っている。